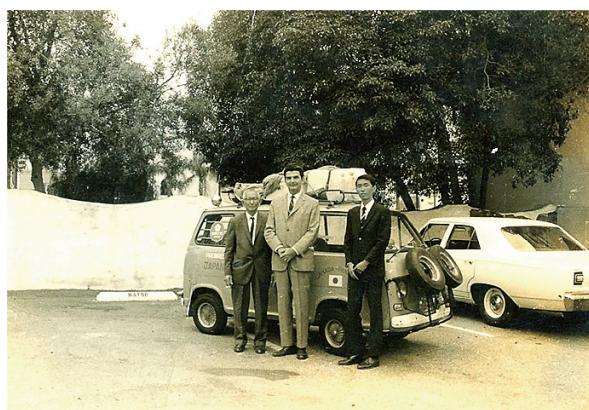


1969年(昭和44年)6月6日

～1970年(昭和45年)2月11日

鳥羽1丁目の伊藤理さん（当時東京経済大学3年、現在七越茶屋の店主）が、万国博のPRと専攻する経営学の見聞を広げるため、単身で北米大陸親善自動車旅行に出かけました。出発は横浜発APLのクリーブラント号、ロサンゼルス上陸後、日本製の愛車スバル・サンバーK163で鳥羽市と姉妹都市のサンタバーバラを訪問。谷本荘司市長のメッセージを届けた後、アメリカの西部を北上し、カナダを横断。再びアメリカに戻り東部を南下して、国境の町ラレドからメキシコに入国いたしました。

中部アメリカを縦走して終着地のパナマまで走行距離は約二万キロメートル、アメリカ合衆国、カナダ、メキシコ、グアテマラ、エルサルバドル、ホンジュラス、ニカラグア、コスタリカ、パナマの9ヶ国を訪問し、約70日間の日程。



帰国は次の年の2月11日に大阪商船のある
せんちな丸で横浜着。

谷本市長にメッセージを預かるため鳥羽市役所を訪問した際、伊藤君はこの旅行で「前途を雄雄しく生きる前進的な源となる自信や、人生意気に感じ物事に当たる積極性を養ってきたい」と、その目的を語られました。

1969年(昭和44年)10月8日～11日

サンタバーバラ市のスタンレー・バートレット氏を団長に18人で鳥羽訪問されました。

8日に三重県入りした一行は松阪で昼食の後近鉄氏山田駅から国道67号線を通って鳥羽に入り宿泊先の小涌園に入りました。同夜は小涌園で市民歓迎パーティが開催され、鳥羽市長の歓迎の挨拶の後、日米入り乱れての乾杯。旧知の人も多く、言葉のわからないながら十年来の知己のような交歓振りをしていました。

翌9日は鳥羽湾めぐりや真珠島を見学、その後岩崎桟橋から徒歩で鳥羽市役所を訪れ、市職員の歓迎を受けた後、日米国旗の飾られた議会場にて、正式な挨拶が行なわれ、谷本市長から紺の法被を贈られました。法被を羽織ってお茶の席に入り、和服を着た女子職員のお手前を、なれぬ手つきでお茶を味わっていました。

鳥羽国際ホテルで市長主催の昼食が行われ、楽しいひと時を過ごした後、伊勢神宮(内宮)を参拝いたしました。帰りは伊勢志摩スカイラインを通り、伊勢湾の遠望にサンタバーバラと似たところがあつて美しいという声が上がり、車窓を覗き込んでおりました。

10日は休養日にしてあったので、友人達とゴルフに出かけたり、市民の家庭を見たいと中野助役の家庭を訪問したりで自由行動し、11日は志摩郡浜島町の合歓の郷を見学、12日に近鉄特急で京都へ向かいました。

1971年(昭和46年)5月31日～6月13日

公式訪問として第2回目（親善使節団としては3回目）となる親善使節団が谷本荘司市長を団長に19人がサンタバーバラを訪問。

一行は31日に東京国際空港を日航ジェット機で出発、同日ハワイのホノルルに着き、入国手続きの後、すぐにサンフランシスコに向かった。6月1日はサンフランシスコを視察。2日に空路ロサンゼルス、その後車でサンタバーバラへ到着。鳥羽へ2度の訪問、そして3年前は鳥羽からの中学生のホームステイをさせていただいたリチャード・ペザリーさんの経営するホテルに到着。夕方は在留邦人

の皆さんと交流。

3日は市役所を公式訪問。議場でジェラルド・S・ファースト市長と友情のメッセージを交換したが、この模様はテレビで2回も放送された。又『サンタバーバラニュースプレス紙』に「サンタバーバラ市の姉妹都市、日本の鳥羽市から親愛なる谷本市長と市民の皆さん、第3回目の親善使節団として当市を訪れました」と紹介されました。

谷本市長は、ジェラルド・S・ファースト市長に両市の名前の入った高さ90センチの大提灯を2個贈りました。



夜は市長招待の晩餐会が行なわれたが、ジェラルド・S・ファースト市長の歓迎の言葉の後、鳥羽市から真珠の五重の塔、提灯1対、市章入りバッジ、タイピン、ブローチなどを贈った。サンタバーバラ市からは「市のカギ」が贈られました。その後ロサンゼルス、メキシコシティ、ホノルルなどを視察し帰国した。参加費は53万円で市民一般募集をいたしました。参加者は谷本荘司鳥羽市長、城山武・城山千鳥・小川良一（南部開発）、上井兼尚（御木本真珠島）、村瀬篠太郎（村瀬建設）、鳥塚幸男（鳥塚履物店）、前田忠次（鳥羽石油）、岡本太行（岡本建設）、鷲尾正徳（志摩勝浦観光船）、石川周二・石川修平（石川商工）、中村吉子（中末鉄工所）、加藤浩史（鳥羽国際ホテル）、宮崎右左江（宮崎建設）、江崎藤男（三井鉄工所）、中村進（大進建設）、森幸生（森建設）
鳥海まり子（東京日野市）

1971年(昭和46年)8月2日~10日

第13回ボーイスカウト世界ジャンボリーが富士山麓の朝霧高原で行なわれ、鳥羽から日本連盟本部役員の齊藤常雄さんら5人が参加いたしました。これは世界80カ国約1万3千人の外国スカウト達と、日本のスカウト8千人が集う国際色豊かな祭典でした。開催中、谷本市長と水谷育成会長も三重県部隊を訪問し激励をしました。又鳥羽団を感激させたのは姉妹都市のサンタバーバラ市のスカウト達と友情の交歓をしたこと、お互いに10年の友人のように和やかなひと時を過ごしました。そして、サンタバーバラからはスカウトたちの寄せ書き、鳥羽からは日本のこいのぼりを贈りました。

1974年(昭和49年)11月1日

鳥羽市制施行20周年記念式典にサンタバーバラ市からデビット・シフマン市長が出席、日本語混じりの挨拶で、鳥羽の伸びゆく市政を祝福していただきました。

1975年(昭和50年)1月26日

アメリカ建国200年を記念して渡米する東京の青年2人が、姉妹都市を結ぶ日本の各地からメッセージを預かり、アメリカ各市に日本車で届ける計画を建てて鳥羽市のメッセージを預かりに来鳥。返事は帰国後彼らの手で各地へ配達されました。

1975年(昭和50年)1月26日

アメリカ建国200年を記念して渡米する東京の青年2人が、姉妹都市を結ぶ日本の各地からメッセージを預かり、アメリカ各市に日本車で届ける計画を建てて鳥羽市のメッセージを預かりに来鳥。返事は帰国後彼らの手で各地へ配達されました。

1976年(昭和51年)3月25日~4月6日

日本のEDI（キリスト教国際教育機構）からサンタバーバラで行なわれたアメリカの交歓キャンプ（海外生活学校）に、鳥羽市の中していただきました。

日本のEDI（キリスト教国際教育機構）か

らサンタバーバラで行なわれたアメリカの交歓キャンプ（海外生活学校）に、鳥羽市の中高生3人が派遣されました。この三人は若杉町の浜口善永君（宇治山田高校1年）、同じく村林弘文君（伊勢高校1年）、鳥羽3丁目の中世古真理さん（鳥羽高校3年）です。キャンプ場が鳥羽市と姉妹都市であるサンタバーバラだったので、谷本市長からデビット・T・シフマン市長にメッセージを託しました。学生達は、シフマン市長に夕食をご馳走になりました。又3人は建国200年をむかえたアメリカの友達と語り合い、素敵な体験と勉強をしてきました。

1980年(昭和55年)3月23日~4月4日

加茂中学校3年の栗原茂さんが私費でサンタバーバラ市の隣町オーハイ市に研修に出かけました。これはEDI（キリスト教国際教育機構）のキャンプで、アメリカ人・カナダ人などの英語レッスンの他、乗馬、ローラースケート、ホームビジット、ショッピング、ホームステイ等で、アメリカの生活を体験するものでした。栗原さんの願いでサンタバーバラを訪れ、サンタバーバラ市長に会うため「姉妹都市の会」の脇田孝子会長に取り次いでいただきました。市長は鳥羽にみえたがあるので市のこと良く知ってみて、谷本市長の健康も尋ねられ、最後にサインをしていただき、固い握手をして別れました。

プログラムの後半はグランドキャニオンやロサンゼルスのリトル東京、ディズニーラン



ドに行きアメリカの友人達と一緒に交流した。

こうして2週間の研修を終え帰国しました。

1981年(昭和56年)4月1日広報とば

姉妹都市サンタバーバラ市が今年誕生200年を迎えるため、鳥羽市では日本の伝統である提灯を贈り、お祝いしました。

これはサンタバーバラ市が誕生200年祭で盆踊りをしたいが会場を飾る提灯がないということを聞き、市では早速市内の観光施設の協力を得て、長さ90センチの大提灯を2個と、長さ35センチの小提灯300個を作つて贈りました。大きな提灯には両市の名前が書かれており、8月15日に行なわれる盆踊りでは青い目の市民で親善の輪ができると期待しました。

1981年(昭和56年)6月



今年誕生200年を迎えたサンタバーバラ市に鳥羽市から提灯を贈りお祝いをいたしましたが、このほどサンタバーバラ市から礼状とともに提灯を飾った写真が届けられました。礼状は市長からの物で、「優雅な提灯を贈つていただき感謝しています。この提灯は200年祭の祝祭（仏教会の盆踊り）を一段とにぎやかに盛り上げてくれるでしょう」と感謝の意が述べられておりました。

写真は大小の提灯を飾つてみている国際交流海外歓迎委員会のバーニス・ブライアント会長と提灯を依頼した日系のヒロシ・タケダ

んでした。届けてくださったのは、サンタバーバラ市のジャパンホリデイツアーワークス一行18人の中のベス・ケイハーウィンさんで、バーニスさんから託されたものを5月12日に御木本真珠島に来鳥の際、鳥羽市長に届けられました。

1981年(昭和56年)

サンタバーバラ市姉妹都委員会委員の上坂麗子様が鳥羽を訪問。サンタバーバラ市長から「市の鍵」「建国200年記念」の青銅製品などを贈呈されました。

1982年(昭和57年)

サンタバーバラ市から脇田孝子姉妹都委員長が鳥羽市を訪問。サンタバーバラ市長からの「額皿」を贈呈されました。



1982年(昭和57年)

サンタバーバラ市長の依頼により、サンタバーバラの市民文化会館に展示するための鳥羽市の航空写真、絵はがきなどを送りました。

1983年(昭和58年)

鳥羽市内小中学校の学生生活と市内観光名所を収録したビデオテープを送りました。

1985年(昭和58年)4月～6月

鳥羽市観光協会の「美しく伊勢志摩」キャンペーンの企画の「サンタバーバラフェア(4月1日～6月30日)」の展示用のサンタバーバラ市的小・中学校の図画、風景写真、ネガなどを送っていただくように依頼いたしました。



1989年(平成元年)2月26日

鳥羽ロータリークラブ(小久保辰男会長)は創立25周年式典を行い、鳥羽市と姉妹都市であるサンタバーバラ市から購入したドルフィン像を市に寄贈しました。ドルフィン像は青銅製で二頭の親イルカと一頭の子イルカがジャンプする格好で、親イルカ一頭の口には真珠の珠がくわえられていました。

市では新年度で整備する佐田浜公園の噴水池に設置をいたしました。



1989年(平成元年)4月16日広報とは

鳥羽ロータリークラブから寄贈されたドルフィン像が市民文化会館の玄関横に仮設置されました。この像は今年度整備される佐田浜公園の噴水池に設置する予定ですが、公園ができるまで一般公開されました。

1989年(平成元年)5月15日～

鳥羽市と姉妹都市を結んでいるサンタバーバラ市から同市に設置されている噴水の設計者であり、サンタバーバラロータリークラブの会長でもあるジル・ガルシヤ夫妻が鳥羽市を訪れ、水谷市長を表敬訪問いたしました。

友好親善のため来日したもので、今年創立25周年を迎えた鳥羽ロータリークラブが記念事業としてサンタバーバラ市からドルフィン像を購入し寄贈しましたが、その仮設置してある市民文化会館や工事中の噴水池現場を視察しました。その後市内の観光施設を見学、伊勢神宮を参拝するなど、二泊三日の伊勢志摩観光を楽しみました。